

研修名 表現領域研修 1 表現一泊研修

平成 27 年 5 月 29 日(金) 11:00～

30 日(土) 14:30 まで

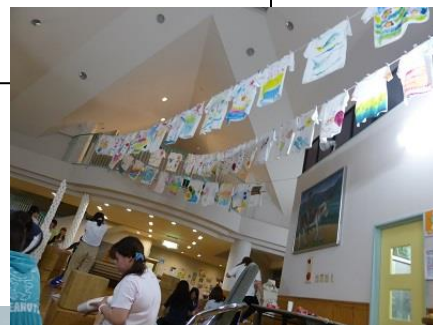
講演「楽・らく遊び力アップ講座」

～海の美しい舞鶴の自然の中で、五感をとぎすませ、

遊びと表現に熱中し、遊び力を高めましょう～

講師 おかだ 美保氏

町田 弘法氏



1. 講演要旨

- 1) ①いろあそび・Tシャツ作り
②お散歩スケッチまたは夏みかんゼリー作り
③遊びの楽しみ方・伝え方
 - ・紙コップあそび
 - ・キラキラボックス作り
- 2) ①砂浜アート・しゃぼん玉遊び
②新鮮おさかなスケッチ・ほめあい会



2. 感想

1)

①いろあそびは 3 回目の研修だったので、1 回目 2 回目とは違う遊び方で遊んでみようという新たな気持ちで挑戦することができました。遊びを積み重ねるうちに新たな発見があったり、発見があることで次はこんなことをしてみたいという意欲に繋がることを感じました。Tシャツ作りでは、思っていた以上に赤青黄の 3 色の色で簡単に布への色付けができ、発色も良く、作り上げていく達成感が味わえました。まいまいハウスの天井に飾られた約 60 枚のTシャツは見た目にも色鮮やかで楽しく、ひとりひとりの個性がよくわかる展示の仕方だと思いました。運動会で子どもたちが作ったTシャツを実際に着ている動画を見せてもらい、作った楽しさから次へとつなげていく活動の展開も参考になりました。

②スケッチでは、クレヨンや水性ペンを使って気軽に描ける方法を教わり、色あそび絵の具と同様の効果が水性ペンで得られ、保育の中でも日常的に取り入れやすいと感じました。水筆があることも初めて知りました。汚れが広がらずに使えるという利点があったので、園外保育に行く時にはぜひスケッチブックと水性ペンや水筆を持って出かけてみたいと思います。

夏みかんゼリー作りでは、神崎ののどかな田舎風景を見て歩きながら、各場所にあるみかんの木を観察しました。みかんのもぎ方や香りなどを自身で学び、感じ、まいまいハウスでのゼリー作りでは、夏みかんの甘酸っぱい香りが広がる中で、果実を取ったり皮の器を作ったりお鍋で混ぜたりと協力して作り上げました。夜のゲーム後みんなで食べた時のおいしさは忘れられません。

③紙コップをグループで協力し高く積み上げて遊ぶ活動では、進めるうちに誰からともなく声を掛けあい「こうしたらどう？」など一つの目標に向かってみんなで協力する気持ちが芽生えていくのを感じました。大人子どもに限らず、みんなで作り上げていく楽しさやその中で人と協力する気持ちを持つことの大切さもあらためて感じる事ができました。また、木の積み木とは違う紙の質感や音を楽しむことができ、小さい子でも親しみやすいと思いました。参観日や親子交流などでもしてみたいと思います。

キラキラボックス作りでは、素材や材料の用意の仕方にも工夫がなされていて具体的な準備の仕方が分かり、とても参考になりました。作っていく中でも、「ピンと張って。」など、オノマトペの方法で擬音を使いながら説明されていて、難しいかな？と感じる活動でも、分かりやすく取り組むことができました。出来上がりは、驚きと感動があり、「作って良かった！」と満足感が得られたことも良い経験となりました。

2)

①2 日目のしゃぼん玉・浜遊びでは、神崎の海辺の自然を満喫し、波の音や砂の感触をのんびりした雰囲気の中で、じっくり味わうことができました。しゃぼん玉液の材料にどのメーカーの洗剤を使うのかによって、しゃぼん玉の膨らみ方や割れにくさが変わることがわかりました。様々なしゃぼん玉の形や種類があり、砂浜の上でそれぞれを実践してみました。その中でも、一番な強力な洗剤と言われていた洗剤では、ロープとパイプで作る方法があり今までに見たことのない大きさで、砂浜でキラキラ輝くしゃぼん玉に感動しました。とても楽しい活動で、子どもでも作ることでできる身近な材料なので、取り入れてみたいと感じました。

②身近に素材を見て、鮮度や磯の香りを感じながらのお魚スケッチであったが、食べる以外でこのようにじっくりと真近に魚を観察することが今までになかったのも、とても興味・関心が高まる活動でした。自由に描いていいとなるとどのように描こうかと迷う所もありました。でも、書き終えた後のほめあい会で他の方の作品を見させてもらい、「こんな発想があったんだ！」「こんな色で表現する人もいるのだな。」と個性を認めることで、自分の描いたものも認めることができ、自信を持てる機会となったように思います。

・全体を通して…

舞鶴が地元の私たちにとっても、地域の良い所に改めて目を向ける機会となったように思います。地元の食材を使った見た目・味ともに美味しい食事を食べて、自然に見て触れて、色・香り・音を感じ、五感を通して、それぞれの活動の楽しさを実感することができました。「一人一人の子どもたちに幸せになって欲しい。」という思いを保育士が持ち、幸せを感じるとともに、まわりも自分も笑顔になり、子どもたちも生き生きと過ごせるのだと感じました。この経験を生かして、たくさんの子どもたちが笑顔で過ごせる保育を目指していきたいと思います。

報告者 ルンビニ保育園 柴田 麻美・宇野 裕子

楽・ら・遊・び・カ・ア・ッ・講座

研修会に潜入取材!

「楽らく遊びカアップ講座」と題して、1泊2日のユニークな保育士研修会が京都府舞鶴市で行われました。その様子を、「描く」「食べる」「あそぶ」の3つの活動に分けてご紹介します。



夢中になるとこんなに楽しい!



中田純子先生
一般社団法人 京都府保育協会
研修委員長
ひいらぎ保育園園長

子どもは夢中になってあそぶなかで学び、成長します。保育士に楽しいあそびの引き出しがたくさんあるほど、子どもに寄り添う幅が広がります。あそびを発展させるアイデアも次々と生まれてきます。まず保育士自身が、心の底から楽しいと思える体験をすることが大切です。そこで考えたのが今回の研修です。表現に加え、食育や、あそび力をアップするための内容を盛り込みました。講師のみなさんや地元スタッフのおかげで、他では絶対体験できない楽しい研修会となりました。

描く



講師 ● おかだ美保さん
水彩画家・コミュニケーションアーティスト

好きな色やかたちを自分で
見つけていくおもしろさ!

研修の最初の活動は、おかだ美保さんを講師に迎えた「いろあそび&Tシャツづくり」から始まりました。自分の気持ち、思っままに好きな色で描くことがとても大切! 子どもの表現も同じです。一人ひとりのステキなところを見つけて一緒に驚き、喜び合います。「ほめてもらってうれしい」と実感し、自信をつけていく参加者。できたTシャツは、ホールの吹き抜けに飾りました。天井いっぱいには広がつて、会場中は大歓声!!

手を使って絵の具で色の放出です。三つの色を混ぜていくと、たくさん色と気持ちが広がっていきます。



「水があそびに来たよ」と、牡蠣の貝殻を使って画用紙の上に水を撒き始めたおかださん。参加者は「舞鶴の波が寄せては返す」と紙の上で水を転がします。

きれいな色になるんだ～!



赤・青・黄の三原色



Tシャツの中に厚紙を入れたら、好きな模様を描きます。いろあそびと同様に三原色の絵の具を使いますが、今度は洗濯しても落ちない液を混ぜてあります。

いろあそび&Tシャツづくり

どんな色をまといたい?
五感で感じて描こう!



泳いでいるみたい

にじみがきれい!

色を塗り重ねていてステキ

おさかなスケッチ

新鮮な魚に感動して描く



とれたての魚は色も鮮やか! 水性ペンで描いた後に水でにじませると、水彩画のよう。魚全体を描いても、しっぽの部分だけでも、どんなふうに描いてもよいですね。

最後に全員の作品を並べて「ほめあい会」を行います。ほめることで、子どものステキなところを見つける目を養います。おかださんはとってもほめじょうす。

京都府 保育士

体験レポート



夏みかんゼリーづくり

自分で収穫した夏みかんで
フレッシュなゼリーづくり



夏みかんを半分に切り、中の果肉を集めます。鍋に果肉と水、砂糖、粉寒天を入れ火にかけて溶かし、ある程度冷めたら、夏みかんの皮に流し入れます。

冷蔵庫で冷やして完成。夏みかんのツブツブの実を感じられるように、レンギョウを工夫しています。

夕食に、舞鶴で採れたそら豆や野菜を調理したカレーをいただきました。調理は舞鶴市園長会の先生方が行いました。



そら豆入りカレー

舞鶴で採れた
そら豆を使って



私たちが
つくりました

袋めしづくり

一袋、一袋、
味を変えて楽しめる!



鍋に水を入れ、沸騰したところに袋を入れます。35分くらい煮たら完成。

食べる

舞鶴の新鮮な食材を
使った楽しい食体験

楠 文範先生

一般社団法人 京都府保育協会会長
社会福祉法人 瑞光福祉会 ルンビニ保育園園長



研修施設の近所にある夏みかんの木に移動し、ひとり1個ずつ収穫。みずみずしい香りが広がります。

食に関する活動は、食べることが大好きな保育協会会長の楠文範先生が主体となり、メニューを考えています。自分で収穫して作る夏みかんゼリーや、耐熱袋で作る袋めしなど、園でもまねしなくなる活動が目白押し。「体や手を動かす研修が楽しい」「5歳児のお泊まり保育でやってみたい」などという声に参加者からあがりました。研修中の食事も、地元の採れたて野菜や特産物などを使い、舞鶴市園長会の先生方の手作りでふるまわれました。

だったら私は
中華にしよう!

私は和風

私は
イタリアン

耐熱袋に150~180gの生米を入れたら、同量の水を入れます。だしの素、コンソメ、カレー粉、しょうゆ、ケチャップなどの調味料と、鶏肉、ベーコン、グリーンピースなどの具材のなかから好きなものに加え、袋の口をしぼります。



そっと
そっと

次にグループで協力して積み上げます。最後は一気にタワーを崩すのもこの活動のおもしろさ。

最初はひとりで紙コップを積み上げます。子どもに任せていれば、積み方を教えなくても、まわりを見ながら自然と工夫したと町田さんは言います。



講師 ●
町田弘法さん

子どもミュージアムをつくる会代表。公立中学校の教師をしながら、触ってあそべるおもちゃを集めた体験型の博物館「よこ子どもミュージアム」を発足。

あそぶ

「あそび」によって
力をつける

「一見より体験」と語るのは、あそびの講師である町田弘法さん。様々なあそびを実際に体験してみても、楽しいと感じるセンスを磨いてほしいと考えています。

研修のひとつである「紙コップタワー」では、合計3500個もの紙コップを使い、グループで協力して高いタワーを作ります。紙コップという壊れやすく不安定な素材を扱うことで、微妙なバランスやさじ加減を自然と学び、できあがったときの達成感を感じることができるといいます。身近な素材を使ったシンプルなあそびから、様々な楽しさと学びが広がります。



紙コップタワー

グループで工夫して
紙コップを高く積み上げる



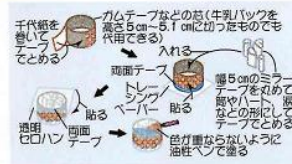
ステンド
グラスみたい！

ミラーテープの乱反射によって、幻想的な光景が浮かび上がります。



いろいろな形に丸めたミラーテープを紙筒に入れ、底に貼ったセロハンに色を塗ります。光にかざしてみると、参加者から驚きの声が出た瞬間の「できた！ きれい！」、ここをねらって声かけすると喜びが増すと町田さん。

【作り方】



シャボン玉

ひもを使った大きなシャボン玉づくりを体験。海風に揺れる巨大なシャボン玉に、参加者も歓声を上げていました。

砂浜で大きなシャボン玉
づくりに挑戦！



97

キラキラボックス

光にかざしたときの
不思議と驚き！

取材協力／一般社団法人 京都市保育協会・京都市民間保育園協会